



まちみらい
チャレンジ
2022
Minamiechizen

活動報告書

町内のにわか

澤崎 みの莉

■活動内容

①南越前町の暮らし紹介

Instagramにて、町内で生活するとどのようなお店を利用するのかを紹介。写真、住所、連絡先、営業時間等を明記しておくことでそこを頻繁に利用する方以外もわかりやすいように工夫しました。今現在、スーパーマーケットとコンビニを紹介しているのですが、今後、コインランドリー、ドラッグストア、習い事など町で暮らす方に寄り添った投稿をしていきたいと考えております。

②町内の課題について

神社のお祭りが廃れていっている事について、神社の方に提案してみる。神社の方に提案して実るかは分かりませんがやってみようと思います。

南越前町の知名度が低い件についてどのようにして知名度を上げるのか考えてみた。この考えた提案をどうしようかと考えているところ。

③町内でアルバイトをする

河野の清海館でのアルバイト。大学2年生の頃から冬季限定でアルバイトに入っているのですが今季もそれを継続。よくどこの子？と聞かれるのでいかにわかりやすく自分の住んでいる地区を言おうか考えて実践しました。

■町との関わり

在住

訪ね先：南越前町内のコンビニエンスストア、スーパーマーケット、ドラッグストア、清海館、南条サービスエリア上り・下り、道の駅南えちぜん山海里、トンネル(ホノケ山等)

■情報発信・共有

Instagramにて不特定多数に発信。様々な方に見てもらえるように、ハッシュタグで「南越前町」「福井」投稿に関するタグなどをつけて投稿していました。また、お店までの道のりを動画にして投稿してみました。

これからはなりますが、熊野神社さんへの提案を考えています。

■成果

今までは、いかに町外の人に知ってもらおうかを考えていましたが、町内の人に知ってもらい南越前町に愛着を持ってもらうことでより町が盛り上げていくのではないかと、この活動と学校でのゼミ活動を通じて感じました。また、自分が小学生や中学生の頃と祭りなどの行事の面で大きく変化しているという事を聞いてはいましたが、この活動を始めてから実感するようになりました。自分自身、高校生のころと比べて、町について考えることや愛着が増したと感じました。また、この活動に参加していなかったら教育委員会の青年交流事業に参加することもなかったと思うので、町に関わるきっかけになりました。この両方の活動を通じてやはり、自分の考え方を大きく広げることが出来ました。自分では分からないのですが、多くの方とお話しして沢山の考えに触れることで、人の考えを否定することが無くなり人づきあいが円滑に行くようになったと感じます。人として変わるきっかけとなった環境であったのでとても楽しくありがたかったです。

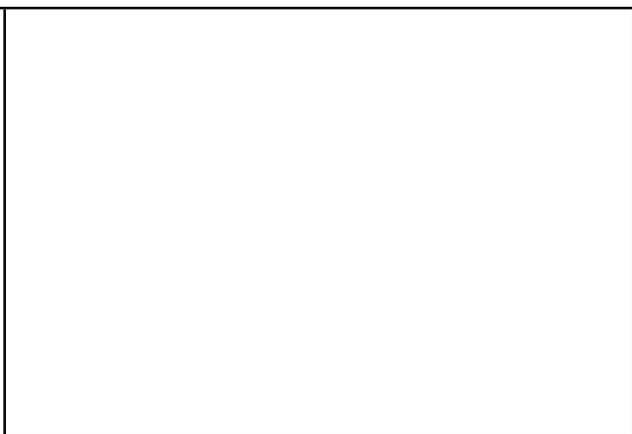
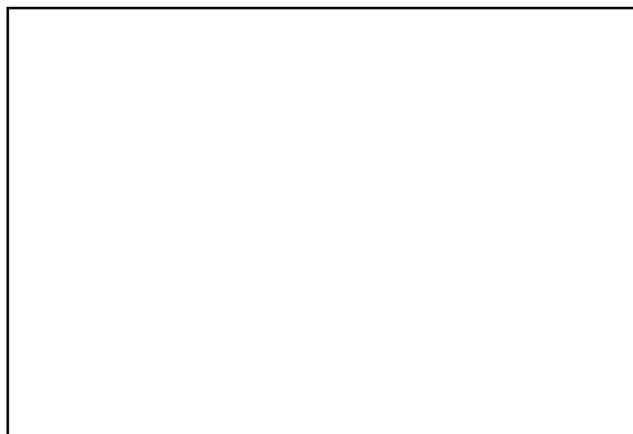
■活動に関する写真等



Instagramで「南越前町の暮らし」を発信



青年交流事業に参加



お花の下に根っこ

清水 のどか

■活動内容

以下の活動を通して得た、お花（素敵な体験）の下には根っこ（努力や思い）があるという考えをもとに、タイトルのエッセイを執筆した。

①湯尾児童館 クリスマス会のお手伝いをして、児童たちと交流した。

②家族旅行 最初は父を連れていき、次に母、最後には妹も含めた家族全員で南越前町を訪れた。行くたび、全員が気に入った。

③はなさか荘にて暮らす はなさか荘にて、計2週間滞在した。滞在中、花農家野村さんのインターンシップ生受け入れのお手伝いを行った。

④Daisanにて滞在 Daisanにて、農業のお手伝いを行いながら過ごした。また、卒論のインタビューも兼ね、何度か訪れた。

⑤友人と旅行 日帰りで1回訪問し、南越前町を案内した。

⑥おみくじ 南越前町のラッキーおみくじを、今庄宿の暮らし屋さんにて設置した。

■町との関わり

①児童館 計2回訪問 湯尾児童館 先生と児童の方々

②家族旅行 計3回 右近家、河野民宿（ながしま荘、与利喜）、道の駅、今庄宿 てまり、川端屋、オリオンベイク

③はなさか荘にて暮らす 計2週間 はなさか荘 野村さん インターンシップ生と農業交流

④滞在 計五日間 Daisan 宇野さん 農家さん ひこさん、きみさん

⑤友人と旅行 日帰りで1回訪問 ROSSO、道の駅、海

⑥おみくじ設置 今庄宿、六助さん、暮らし屋

■情報発信・共有

普段の会話の中で、家族や、友人知人に話したところ、興味を持っていただき、実際に一緒に旅行した。また、年賀状に南越前町で撮った写真とエピソードを付けた。私に教えてもらわなかったら来なかったけれど、とてもよかったと言っていた。特に右近家西洋館は、ずっと謎の建物があるときになっていたけれど、こんなところだったのか！と反応が大きかった。また、後輩でまちみらいチャレンジに興味を持っていただいた子に活動を紹介すると、良い反応を得られた。

■成果（変化）

私が変わったことは、失敗も一つの必要で大切な経験だと実感したことだ。南越前町での体験を、ただの夢の田舎暮らし、で済ませないその土地ならではの苦労を実感し、また自分の未熟さ、改めて尊敬した。私は自分の中にもぐって考えるのが好きで、なかなか人に働きかけて関わっていくことって難しいと思った。関わるきっかけを多く作ってくれる人がいることの大切さに気付いた。逆に、自分は未熟だからこそ多く学べることもあった。例えば児童館では、表面的に子供の近くで何かのタスクをこなすだけではわからない、児童たちの尊敬できる部分を多く見つけた。家族や友達が私の話で興味を持って実際に足を運んでくれたことが嬉しかった。とてもやさしい人に囲まれているなど気づいたし、話したことを実際にフットワーク軽くしていってくれることがこんなに嬉しいんだと思った。また、昨年滞在し、また改めて滞在するとき、安心感があって、安心できる場所ができたことがすごくうれしいと改めて気づいた。一人暮らしをすることは短期間だが困難だった。一人で新しい土地にいることの心細さは、実家暮らしの私には新鮮な体験だった。また、虫が出ることとか田舎暮らしの大変な面も身を持って体験した。これも大切な経験で、ただの夢物語で終わらない体験をできてよかったと思う。おみくじでは、「せっかくいいことをやるんだから、お客さんに楽しんでもらえるものにした方がいい」「お店に置くということは、自分のものでもあるから」という、お仕事についての熱い思いが聞けた。これから仕事をする上や、願いをするには、相手の大切にしていることを想像して考えることが大事だと思った。

南越前町での思い出



左上から右に数えます。

- ①南越前町豪雨災害でのボランティアでの写真。とてもやりがいがありました！
- ②農作業中に取った写真。きゅうり袋詰め中。
- ③家族旅行中、母が撮った一枚。後ろの紅葉が綺麗。
- ④南越前町おみくじのパッケージ。かわいいが、もう少しわかりやすくする余地あり。
- ⑤右近家西洋館で一番お気に入りの部分。ステンドグラス、素敵すぎる。
- ⑥児童館でのクリスマス会で、児童館の子たちからいただいたプレゼント。嬉しい宝物。
- ⑦里芋収穫の一枚。コツコツ収穫して、この後うまい豚汁になると思うと…輝きが違う。
- ⑧遊びに来てくれた人と、自分で作った何ご飯。おすそ分けのピーマンを肉詰めにしたら、信じられないほどおいしかった。
- ⑨全力で掃除機掛けにいそしむ私。気合が面白かったとのこと

「#南越前」による南越前町の魅力発信

殖栗 和也、稲村 美玖、
青木 駿、阿久津 愛美

■活動内容

2023年度末に北陸新幹線が敦賀まで延伸予定であり、福井県への観光客数増大が期待されます。南越前町の素晴らしい景色や食を発信し、認知や観光客増加に繋がりたいと考え、この企画を提案しました。南越前町の魅力を広く知ってもらうためには、情報拡散力が期待できるSNSを活用するのが最適だと考え、SNSでの魅力発信活動を行いました。

①南越前町の訪問

南越前町を訪れ、自然などを実際に体感することで南越前町の魅力を感じました。また、ゼミの先輩によって誕生したサイクリングプラン（歴史ある廃線跡と豊かな自然を満喫する！～サイクリングの旅～）を体験し、豊かな自然と日本遺産の旧北陸線トンネル群と今庄宿を自然と共に体感しました。

②SNSを使用した南越前町の魅力発信

①で実際に撮影した写真を中心に、Instagram (@minamiechizen_okuzemi) にて発信し、リアルタイムに発信できるというSNSの特徴を活かし、旬の情報などを発信しました。投稿にハッシュタグや位置情報を関連付けることで、より拡散力を増加させ、観光地を探したいと考えている方に興味を持ってもらい、実際に訪れてもらいたいと考えています。

■町との関わり

8月上旬に訪問。

南越前町役場 インタグラムによる広報活動のアドバイスをいただきました。

今庄観光協会 今庄観光協会の方々：先輩方からの引き継ぎを通して、まちのお話をお聞きしたり、サイクリングの際に自転車をお借りしました。

訪問するにあたり、沢山の方にお世話になりました。この場を借りて、感謝申し上げます。

■情報発信・共有

Instagramを使用し、南越前町の魅力発信を行いました。人気投稿を中心に投稿への反応・データ分析を行ったところ、リーチ数（1つの投稿を見た人数）は3,000を超え、また年齢層としては、18-24歳が31.8%、25-34歳が22.7%と、投稿を見た大半が事前に設定したターゲットと一致しました。さらに、35-44歳16.7%、45歳-54歳16.3%と、幅広い層から注目されていることもわかりました。

■成果（変化）

SNSを活用した地域活性化は今後どんどん増えていくと考えています。南越前町の様々な魅力を沢山の方に発信していくことはとても楽しく、また自分にとってたくさんの学びや成長につながりました。（殖栗）

SNSでの広報活動を始めてから、南越前町の魅力をどう自分の言葉で伝えるかという点の重要性に気付きました。SNSでは文字や画像のインパクトが要になるため、認識の齟齬が生じない言葉の言い回しや思わずクリックしたくなる投稿内容、サムネイル画像などを心がけ、受け手目線に立った広報活動が行えました。今後は、SNSと共に我々の知識やデータを後輩に引き継ぎ、南越前町の更なる魅力発信に努めたいです。（稲村）

現地にはいない私たちが町の魅力をどう伝えるかを考えて活動を進めました。その反省として、今後はより多くのデータに基づいた分析で、町の魅力を伝えることができるように、投稿の多様性や頻度を上げること、そして、私たち自身がさらに地域の方々と交流を深め、南越前町について親近感を持ってもらえる発信活動が必要であると思いました。（阿久津）

南越前町を知らない人や訪問したことがない人に対して、如何にアピールすれば魅力的に伝わるかを考えました。名前も場所も知らない人たちに行きたいと思わせる投稿に取り組みました。実際に投稿を見て訪問に至るまで思わせるのが難しいと感じました。（青木）

活動に関する写真等



活動番号

4

デジタルデトックスプランの提案

山崎 佳英、中村 富、神谷 来渡、
藤 花実、前平 愛海

■活動内容

①デジタルデトックスプランの作成

春～秋で楽しめるようなデジタルデトックスプランを現地訪問とヒアリングをもとに作成

②デジタルデトックスパンフレットの作成

先輩方が作り上げたサイクリングプランとのシナジー効果を期待して今庄観光協会にパンフレットとスマホボックスを設置

■町との関わり

来訪時期：2022年8月1日～8月3日、2023年2月4日

来訪場所：南越前町役場、南越前町今庄観光協会、花はす温泉そまやま、花はす公園、ほっと今庄おばあちゃんの店、株式会社みつぐはうす工房、甘味処てまり、旧旅籠若狭屋、道の駅南えちぜん山海里

取材、ヒアリング対象：南越前町役場、南越前町今庄観光協会、宇野さん

関わった方：玉村屋 中谷さん 地域おこし協力隊 田上さん

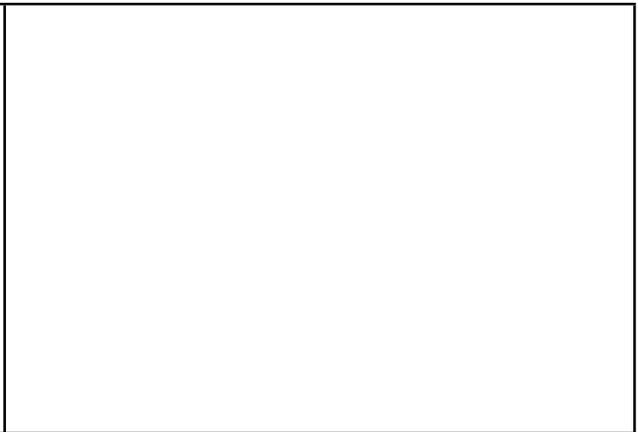
■情報発信・共有

2023年2月に訪れた際には、パンフレットの草案を南越前町役場・今庄観光協会・宇野さんに見ていただきました。お褒めの言葉や改善ポイントをご教授下さり、完成にのための有意義な訪問となりました。

■成果（変化）

活動前は、「ゼミの取り組みで一番遠くてやりがいがありそうだな」という思いで応募をしましたが、何も知らず先輩からたくさんヒアリングをしてイメージは湧かせていました。そして昨年の夏にいざ先輩と訪問。あまりの遠さにびっくりしながらも、想像以上によそ者の私たちに温かく受け入れて下さる町の皆さんと過ごす中で、地元には感じない不思議な気持ちになりました。この経験を通じて、私の中で二つの変化がありました。一つ目は「現地を訪れる重要性」です。デジタルデトックスプランを考えるにあたって、自分たちが感じた想いを伝えなければならないなか、訪問回数が足りず、不完全燃焼で終わってしまったのが悔しかったです。この経験から、もっと現地を訪れることが必要だと感じました。二つ目は、「旅行の時も現地の方とお話したい」と思うようになったことです。今回のプロジェクトでは南越前町の方々から私たちに声をかけてくださり、そこから町の方の温かさに触れることができました。この経験を生かして、旅行の際には自分から地域の人に話しかけることで旅行をより価値のあるものにしたいと思いました。このプロジェクトに取り組みたいという後輩も多くいるので、今回得た知見を共有するとともに、また就活が落ち着きましたら訪問させていただきたいと考えています。

■活動に関する写真等



「南越前町オリジナルのへしことは？」

玉谷 優花、天谷 理香子、
笠谷 侑生、堀井 蒼汰

■活動内容

①「タケノコ×へしこでオリジナル食品の開発」

実は福井県名産のサバのへしこには福井産の鯖は使われていない。消費者目線に立った際、「南越前町のへしこ」として売り出すには県内産の材料を使用していることが大切だと考え、サバ以外の原料“タケノコ”を使用したオリジナル食品の開発を目指した。

②「へしこのもっと美味しい食べ方

～オリジナルレシピの開発～

今回開発したタケノコへしこのアレンジレシピのほか、定番の鯖のへしこのアレンジレシピの考案も行った。

③「へしこの品質安定化に向けて」

今回の活動で協力をいただいた海の宿さへいさんのへしこには、米麴が使われているのが特徴。旨味と甘味を引き出すために入れられているそう。この米麴に含まれている酵素に着目することで、よりへしこ作りに最適な米麴の選定を行い、へしこの品質安定化を目指した。

■町との関わり

以前より大学の授業でお世話になっていた、うみの宿さへいの女将さんには、まちみらいチャレンジでもお世話になった。8月、10月の計2度女将さんの元を訪れ、現在のへしこの課題を調査した。へしこ作りを行う蔵も見学させていただき、へしこをつけた後の糠が捨てられている状況もこの時に知った。レシピ作りを行う際は南越前町産の素材を利用することにこだわった。畠山酒造(株)さんの酒粕を分けていただいたり、道の駅「南えちぜん山海里」を訪れて、マルゴ醤油などレシピに使用できそうな材料を揃えた。

■情報発信・共有

①「試食会の開催」

完成したタケノコへしこを大学内の生徒や教授に試食してもらい、味の感想を得た。

「飲食店での提供」

知人が経営するバーにて、お酒のあての限定メニューとして提供を行い、好評をいただいた。

「大学広報誌での情報発信」

福井県立大学の広報誌「FPU NEWS」にて、地域貢献活動の一環として取り上げていただいた。

■成果（変化）

・活動を通して

活動を通して、へしこが抱える問題の解決に貢献した。へしこを使った料理を提供した際には、へしこが苦手な人にも美味しいと感じてもらうことができ、より多くの人に魅力を知ってもらうことが出来た。現地の施設訪問やインタビューを通して、南越前町の魅力をさらに知った。人の温かさや食の豊かさなど、訪れることでしか感じる事の出来ない良さを今回のまちみらいチャレンジで感じる事ができた。

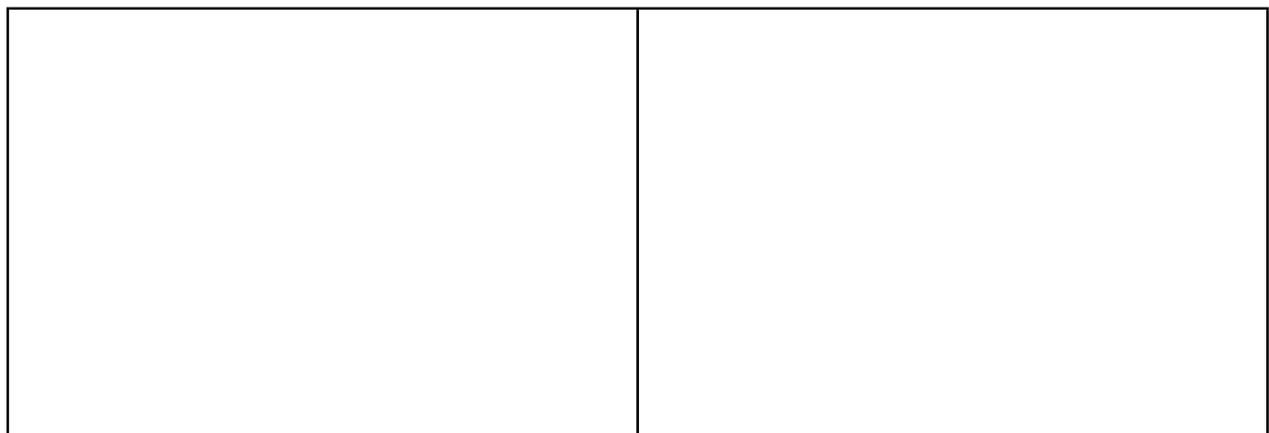
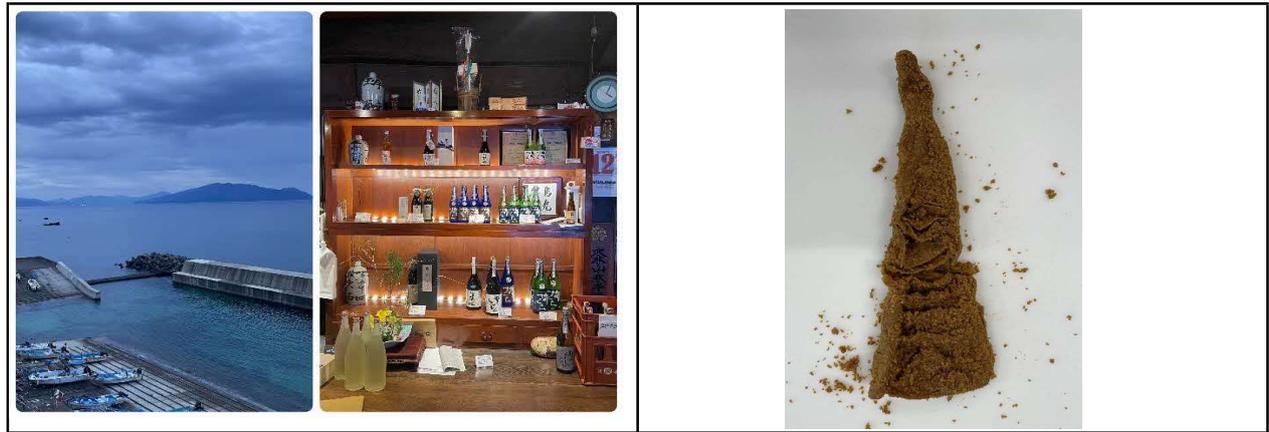
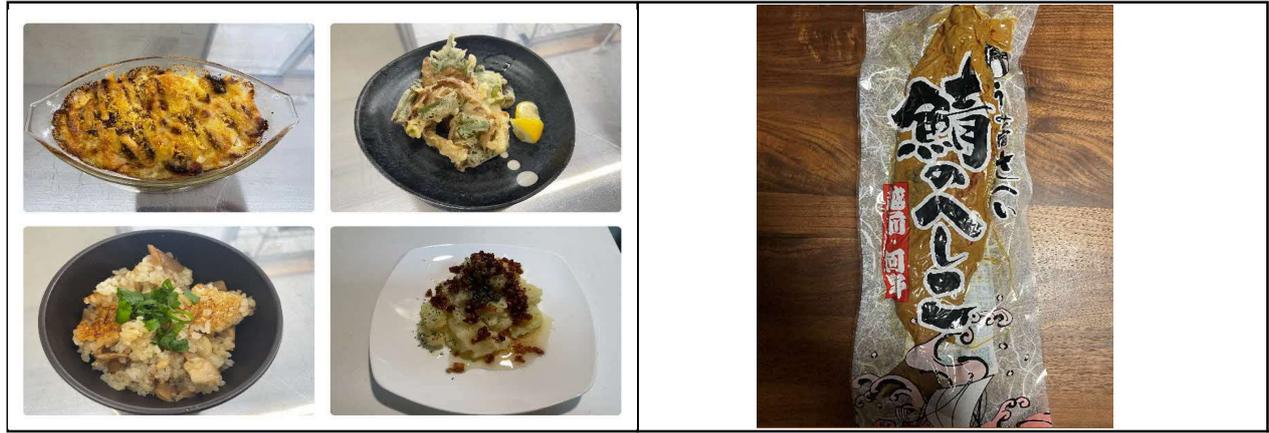
・自分達自身の変化

自ら行動することの大切さを学んだ。活動当初はなかなか行動に移すことが出来ず、活動をPRする方法や地域の協力を得る方法を模索していた。しかし、考えるよりもまずこちらから協力を依頼することで力を貸してもらうことが出来た。酒粕を分けていただいた畠山酒造さんも快く依頼に応じてくださり、搾りたての酒粕をその場で頂いた時は心が温かくなった。

・今後について

「タケノコへしこ」の味や製造方法の改良を重ね、商品化を目指したい。また、私たちの活動を通して、商品から得られる利益を地域や生産者に還元していきたい。

■活動に関する写真等



南越前町の特産品を対象にした紹介カード作成 一道の駅 南えちぜん山海里を拠点として一

為沢 友月、藤次 光咲

■活動内容

①リーフレット（冊子）作りにむけて 活動当初、私たちは“南越前町の人・まちのよさ”を伝えることを目的とし、「道の駅 南えちぜん山海里（以下：山海里）」設置することのできるリーフレット（冊子）づくりを考え、南越前町についての情報収集およびリーフレットに掲載する内容の検討などを行ってきた。

②現地視察 9月末に、宇野様に町内をご案内していただきながら現地視察を行った。午前中は今庄駅周辺および宿場町の散策、現地の方々との交流を行い、午後からは南越前町役場へご訪問に伺い、考えていたリーフレット案についての意見交換や山海里の現状および課題についてご教示頂いた。また実際に山海里を訪れたことで、「南越前町産の商品が置かれている場所の不明確さ」「POPの統一性」など山海里における新たな課題も明らかとなった。

③企画案の再検討、作成 現地視察をふまえて明らかとなった課題を受け、作成するものをリーフレットから南越前町産商品の紹介カードと店内マップに変更した。変更後の目的は「南越前町産商品の導線づくり」および「来訪者に南越前町で作られているものをより知ってもらうこと」とし、以上2点の作成に着手した。

■町との関わり

2022年9月26日、一日をかけて宇野様に南越前町をご案内して頂いた。午前中は主に今庄駅周辺を散策しながら、鉄道と宿場町の歴史や福井県での冬の暮らし方等について学んだ。午後からは役場へのご訪問および山海里での視察を中心に伺い、活動における具体的な方針や実現可能性について自身の目で確認し、考えることができた。また宇野様にはその他たくさんの南越前町のお店へ連れて頂いた。交流した現地の方からは「頑張ってるね」と声をかけて頂き、南越前町で暮らす人々の温かさと町のすばらしさを実感した。

■情報発信・共有

ゼミ内で活動状況を報告しアドバイスを得ていた。教授からは、「視覚的な情報に併せて、ラジオ形式のように聴覚的な情報も発信できると、さらに面白いものとなるのではないか」というアドバイスをいただき、紹介カードをさらに発展させることが出来ると考えた。また同輩からは、「南越前町や福井県に足を運んでみたい」「私も活動に参加してみたい」という声を貰い、この取り組みを継承し、次年度へつなげていくことも可能であると感じた。

■成果（変化）

活動前は、今まで南越前町との深い関わりを持つことがなかったため、本プロジェクトを通して、まちの方々と積極的に交流しながら、私たち自身が南越前町の魅力を知り、それらを発信したいと考えていた。実際に南越前町に訪問して、人の温かさや優しさ、歴史・自然の豊かさ、関西からのアクセスの良さ、お店の素敵さなど、地域資源の豊富さに気づくことが出来た。特に、町外から来た私達を温かく迎え入れて、励ましの言葉や感謝の言葉をいただいたことが心に残っており、地域内外問わず、より多くの人々にこのまちの人々の優しさや素晴らしさを気付いてもらいたいと感じた。そして来訪を機により一層活動に励みたいと思った。今回の活動を通して、南越前町の春夏秋冬それぞれの魅力や、未だ知らない南越前町の魅力を知りたいと感じたため、継続的に南越前町や住民の方々に関わりたいなど考える。そのかわりの中で、南越前町の魅力をさらに深掘りしたい。ゼミ内で活動内容を共有したところ「この取り組みに興味を持った」「南越前町を訪れてみたい」という声があったため、後輩に引き継ぐことが出来れば、紹介カードの実現や発展の可能性も高まる。

■活動に関する写真等

2. 現地視察



今庄駅-今庄宿



白髭神社



ROSSO

現地視察



南えちぜん山海里



GENOME REAL STORE



ORION BAKE



町役場の方・協力隊の方との話し合い

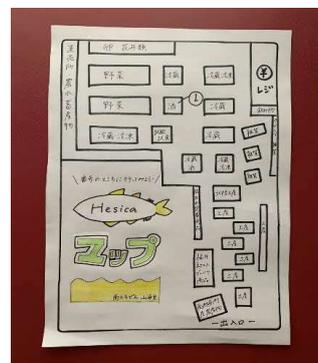
3. 山海里の視察を経て



- ・子どもの遊び場がある
- ・車で来ることができる
- ・イベントが開催されている
- ・郷土料理を知ることができる
- ・県内各地の商品が取り揃えられている
- ・県内の観光パンフレットが充実している



- ・どこに南越前町産の商品が置かれているのかわかりづらい
- ・POPに文字が多く、読むのに時間がかかってしまう





豪雨災害から考える南越前町の防 災

都築 大輔

■活動内容

①8月に発生した豪雨災害のボランティアに参加

今庄に住んでいた知り合いの元へボランティアスタッフとして泥だしをしに行ったボランティア参加前にどのような持ち物が必要か、そもそも町はどのような状態なのかがわからず不安だった。

その不安を取り除くことができる方法がないのかを模索。

②災害現場の状況とボランティアセンターについての調査

被害を受けた、今庄、赤荻地域に取材を行った

災害は発生当時の様子や支援がされるまでの流れを聞くことができた。

ボランティアセンターを立ち上げた社会福祉協議会に取材を行った。

南越前町だけではなく、当時のBCにもかかわっていた坂井市や鯖江市の社協にも取材をし、南越前町の災害の課題点やよかった点を伺った。

③ビジネスプランコンテストに災害時に防災情報の発信を行えるアプリを提出

最終選考会に選ばれ発表を行った。

プラン作成のために、福井システムズ株式会社への訪問とサイボウズ社のキントーンの説明会への参加をした。

プランの結果は奨励賞だった。

④むすび塾が主催する防災情報交換会への参加

防災について取り組む若者の情報交換会へ参加し、災害ボランティアの心構えや情報発信について伝えた。

■町との関わり

来訪場所

今庄宿、河野観光案内所、南越前町社会福祉協議会、旅籠塾、等

旅籠塾では、北村様、西村様に豪雨災害発生当時の様子とその後の行動について取材した。

河野観光案内所では赤荻地区の区長の小角様から赤荻地区でのボランティアが遅れてしまった理由について深く尋ねた。

社会福祉協議会では米野様からボランティアセンター立ち上げ当時の様子や災害発生時の取り組みについて伺った。

■情報発信・共有

①ビジネスプランコンテストで災害発生時の情報発信をスムーズに行うプランの提案

実際に参加した目線から考案したアプリ「ボランティアパスポート」はこれからの日本には必要だと評価をいただいた。

②むすび塾での防災の取り組みについての情報交換

同世代の人と、防災に関する情報交換を行った。

私からは南越前町の豪雨災害から感じたボランティア情報の重要性和発信についてお話した。

■成果（変化）

今回の活動ではアポをとっての取材が多かった。インタビュー形式で行うために事前に調べて聞きたいことを聞き出せる取材を心掛けた。うまくいかないこともあったが、聞きたいことを聞き出すことができた。

活動の中で災害時のボランティアに焦点を当てていたが、減災、防災についても興味が出てきた。山間の地域だからこそ起こり得る災害についての知識をつけ、南越前町で次このような災害が起こった際にどのように対応するのがよいのかを発信したい。

また、防災アプリを配信することで多くの人が持つ防災情報を共有しあう場を作りたい。

■活動に関する写真等



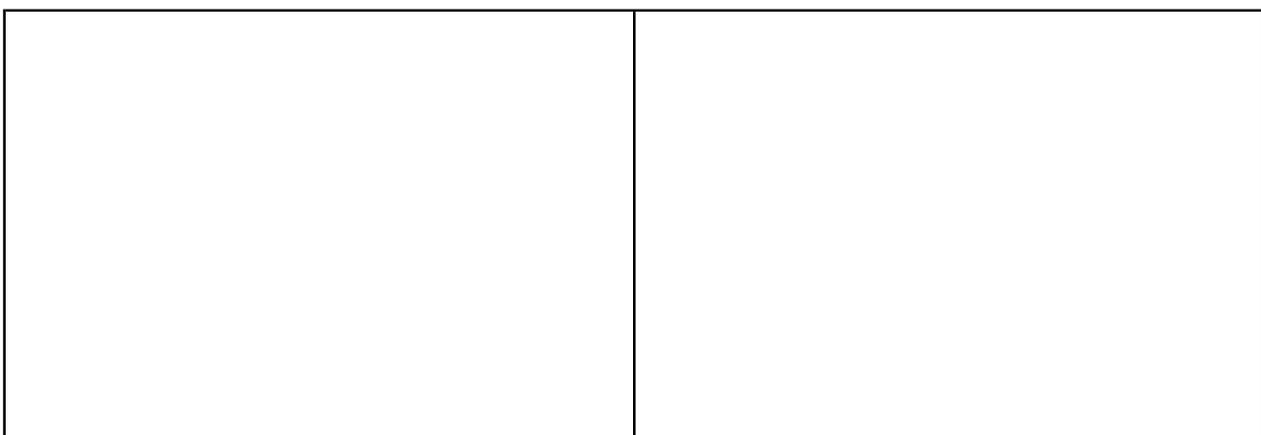
ボランティアに参加したときの様子



今庄で取材



社会福祉協議会で取材



南越前町版人生ゲームを作ろう！

今村 美吹

■活動内容

【目的】

地元の中学生と制作したオリジナルの人生ゲーム（南越前町版人生ゲーム）を地域交流のツールとして活用することで得られる効果を探る。また、南越前町版人生ゲームはふるさとへの愛着や誇りの形成に意味のあるツールなのか、効果検証する。

①南越前町でイベントの開催

「ボドゲで遊ぶ日曜日～南越前町版人生ゲームで遊ぼう～」

1月28日（日）に南条地区公民館にてイベントを開催した。約15名の参加者とともに、南越前町版人生ゲームをはじめとする様々なボードゲームで遊び、地域住民同士の交流を深めた。

②アンケート調査の実施

イベント終了後に参加者にアンケート調査を実施し、南越前町版人生ゲームの効果や改善点を明らかにした。この結果は今年度の自分の卒論研究に生かす予定である。

■町との関わり

イベント共催者 ボードゲーム教室講師 野村直樹さん

イベント宣伝のためにチラシ設置を許可してくださった施設・店舗

南越前町役場、南越前中学校、南条小学校、今庄小学校、湯尾小学校、河野小学校、ウォータールンド南条、ハニー南条店、Aコープ南条店、セブンイレブン南越前町店、道の駅南えちぜん山海里、ファミリーマート今庄店、ファミリーマート+ハーツ河野北前船主通り店、河野シーサイド温泉ゆうばえ

■情報発信・共有

今回、インスタグラムや福井若者情報発信局といった各種SNS以外にも、上記にある南越前町内の施設・店舗にご協力いただき情報発信を行った。これは、世界中の人ではなく、南越前町に住んでいる人、南越前町に関心がある人など南越前町にゆかりのある人にこそ、イベントに参加してもらいたい気持ちがあったからである。また、南越前町はSNSをあまり利用していない世代の方が多く住んでいるのでSNSよりチラシの方が宣伝効果があると考えた。

■成果（変化）

今回の活動を通して1番に実感したのは、新しいことにチャレンジすることの怖さと楽しさである。私は、今までも町の活性化のために活動をしていたが、それは自己満足のようなもので、自分の中で終わることが多かった。しかし、今回は自分の活動をもっとほかの人のために広げることにはできないか、町のために活用することはできないかと考え、イベントを開催することに決めた。イベントの開催に向けての準備の中で一番怖かったのは、宣伝である。どれだけ宣伝しても誰も来てくれないのではないかという不安に襲われた。しかし、周りの方々の協力があって無事参加者を集めることができた。新聞やチラシで自分の活動を知り応援に来てくださった方もいて、改めて南越前町民の温かさを感じる事ができた。この経験は、自分を大きく成長させてくれたと思う。

自分自身ずっと祖父にあこがれて公務員になりたいという思いはあった。しかし、どんな公務員になりたいというビジョンは見えないでいた。しかし、この経験から、私は頑張っている人を応援できる公務員になりたいと思った。町のために頑張っている人に限らず、子育てや仕事などいろいろなことを頑張っている人に対して、公務員としてできることを精一杯していきたい。そして、この町に住んでよかったと住民が思えるようなそんな町を作っていきたい。

■活動に関する写真等

イベントのチラシ

南越前町ならではの
マスを地元の中学生在
が考えました！！

ボードゲで遊ぶ 日曜日

～南越前町版人生ゲームで
遊ぼう～

2023.1.29(日)

時間 **13:00～15:45**

場所 **南条地区公民館 ホール**

参加は事前予約が必要となります！
※予約締切は1月28日(土)まで
※応募多数の場合は、締め切りです
参加は下記QRコードからの申し込みです

共催：福井大学 今村英吹
ボードゲーム教室
問い合わせ先：ボードゲーム教室 講師 野村直樹
☎090-7484-3594

南越前町役場、南越前中学校、南条小学校、今庄小学校、湯尾小学校、河野小学校、ウォーターランド南条、ハニー南条店、Aコープ南条店、セブンイレブン南越前町店、道の駅南えちぜん山海里、ファミリーマート今庄店、ファミリーマート+ハーツ河野北前船主通り店、河野シーサイド温泉ゆばえ



イベントの様子(1/29)



「ボードゲで遊ぶ日曜日 ～南越前町版人生ゲームで遊ぼう～」

約15名の方が参加してくださいました！
京都や兵庫といった遠いところから、来てくださった参加者もいて驚きました！
小学生から大人の方まで、年代関係なく
楽しく遊んでいて、とても意義のある時間になりました！！

南越前町における多文化共生

江島 実咲

■活動内容

①南越前町の在住外国人についての調査

令和2年の国勢調査～人口等基本集計結果～によると、令和2年10月1日現在、福井県の人口は766,863人、南越前町の人口は10,002人、南越前町の外国人人口は57人であった。南越前町に住む人口の約0.6パーセントが外国人であり、その割合は福井県の中でも特に低かった。

②町の人への聞き込み

10月に南越前町を訪れ、元地域おこし協力隊の宇野さんのご協力のもと、今庄の街の人へ「南越前町で外国人を見かけたことがありますか」といった質問を行った。その中で、外国人技能実習生を受け入れている会社があるという情報を聞き、南越前町の外国人技能実習生に注目することにした。また、それらの情報や南越前町の企業の調査をもとに、実際に企業に連絡を取り、活動協力をお願いをした。

③外国人技能実習生と受け入れ先企業へのアンケート調査

南越前町で働く外国人技能実習生がどこの国から来ているのかや日本で何が困っているのか、受け入れ先企業としてはどんな支援が必要だと感じているのかを知りたく、外国人技能実習生と受け入れ先企業それぞれの方々に、Googleフォームまたは郵送によるアンケート調査を行った。アンケートの結果、外国人技能実習生は特に日本語習得の面で困難を感じることもあり、何かの支援が早急に必要なのではないが、支援や活動がもしあれば外国人技能実習生の生活に役立たせることができるのだと考えた。

④株式会社クシムラ組さんの忘年会への参加

12月に南越前町を訪れた際には、株式会社クシムラ組さんの社長である榎村悦生さんのお誘いのもと、クシムラ組さんの忘年会に参加させていただいた。クシムラ組さんで働いているベトナム人技能実習生も参加しており、一緒に食事をしながらお話しすることができた。

■町との関わり

来町期間:10月5日～10月8日、12月9日～12月11日

ヒアリング対象者:南越前町で働く外国人技能実習生、外国人技能実習生を受け入れている会社の方

その他にも、地域おこし協力隊の方やインタビューを行った南越前町の方々とも関わらせていただいた

■情報発信・共有

今回の活動では、SNSなどを通じた情報発信が行えなかった。

ただ、この活動での調査や街の人との会話を通して、南越前町には在住外国人がいるという情報を南越前町の中での会話を通して発信できたのではないかと思う。

■成果（変化）

活動を通しての気づき

活動を通して南越前町を訪れる中で、南越前町の自然や歴史、食の魅力や、人と人の強い繋がりと優しさなどに触れることができた。また、外国人技能実習生へのアンケートをみても、外国人にとって南越前町の自然はとても魅力的であるのだと感じた。

今後について

外国人の割合の高い街や都道府県での多文化共生に向けた取り組みは増えてきているが、今回の活動を通して町の特徴を活かし、外国人に「南越前町にきたい」と思ってもらえるような取り組みや、支援づくりを考えるきっかけとなった。今後は、特に在住外国人にとっても大きな困難と言える日本語に関する支援について、南越前町のように在住外国人が少ない町だからこそできる取り組みを考えていきたい。

■活動に関する写真等

株式会社 クシムラ組さんの忘年会に参加



南越前町の自然にもたくさん触れました



技能実習生の言語を使ったアンケート作成



『南越前町（みなみえちぜんちょう）に住む外国人技能実習生（がいこくじんぎのうじっしゅうせい）に関するアンケート』

「まちみらいチャレンジ2022」に参加しており、南越前町に住む外国人技能実習生の方にアンケートのご協力をお願いしております。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

「まちみらいチャレンジ2022」にさんかして、みなみえちぜんちょうに住む、がいこくじんぎのうじっしゅうせいのかたに、あんけーとのごさようりよくをおねがひしてあります。ごさようりよくのほど、よろしくおねがひいたします。

Chúng tôi đang yêu cầu các thực tập sinh kỹ năng nước ngoài đang tham gia "Thử thách Machi Mirai 2022" và sống ở Thị trấn Minami Echizen hợp tác trả lời câu hỏi. Cảm ơn bạn đã hợp tác của bạn.

日本に来てどれくらい経ちましたか

段落